

日本学術会議 公開シンポジウム

2013年2月23日(土)

13:00~17:00

於 日本学術会議講堂

災害復興とジェンダー

プログラム

司会 江原由美子 (首都大学東京・学術会議会員)
金井淑子 (立正大学・学術会議連携会員)

開会挨拶 上野千鶴子 (立命館大学・学術会議会員)

報告

- 1. 震災からの地域再生と復興事業の課題**
岡田知弘 (京都大学・学術会議連携会員)
- 2. 震災復興における包括的支援の課題**
遠藤智子 (社会的包摂サポートセンター事務局長)
- 3. 東日本大震災からの復興と都市政策の課題**
山地久美子 (関西学院大学災害復興制度研究所研究員)
- 4. 学術会議の東日本大震災への対応とジェンダーの視点**
大沢真理 (東京大学・学術会議会員)

コメンテーター

伊藤公雄 (京都大学・学術会議連携会員)
皆川満寿美 (東京大学社会科学研究所・特任研究員)

討論

閉会挨拶 辻村みよ子 (東北大学・学術会議会員)

主催 日本学術会議・社会学委員会ジェンダー研究分科会
共催 社会学委員会複合領域ジェンダー分科会
史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会
法学委員会ジェンダー法分科会

お問い合わせ tokyo-office@wan.or.jp

東日本大震災から2周年を前にして、「復興」の全体的な遅れが指摘されるとともに、復興格差が懸念される状況だ。当初から復興へのジェンダー視点の不在が指摘され、復興過程への女性参画の不在、復興予算のジェンダー的な偏りなど、現在も問題はいくつも指摘されている。

既に大震災に先立ち、日本社会は深刻な雇用破壊を背景に、格差拡大、貧困の増加といった問題を抱えてきた。

格差と貧困の影響はとくに女性に集中し、とりわけ東北地方では製造業における派遣切りのみならず、少子高齢化の影響も大きく、大震災・ツナミと原発事故はそのような状況に襲いかかった。

途方もない代償を払ったこの大震災から教訓を得ることなく、巨額の予算を増税で調達し、震災以前から社会的弱者であった女性や高齢者、若者を取り残したまま「復興」の道を進むならば、それ以前からあった問題はさらに拡大するだろう。

「復興」の道筋において問われているのは、ジェンダーの視点をその中に組み込み、日本社会の再生のシナリオを根底的に問い返すことではないか。

「震災復興とジェンダー」のテーマのもとに「復興元年」の現実を明らかにし未来への提言を行いたい。

定員300名
先着順, 予約不要
入場無料

日本学術会議講堂
〒106-0032
東京都港区六本木7丁目22-34
TEL 03-3403-3793
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口5 徒歩1分